

# 宮古民報

2018・5・27  
第1564号

日本共産党  
宮古地区委員会  
市内宮町4-6-49  
電話62-5808  
FAX 62-3897

しんぶん赤旗  
日刊紙3497円  
日曜版 823円

## 憲法を活かした地域づくりを

### 国民大運動岩手が市に要請

15日(火)軍事費を削って暮らしと福祉・教育の充実を求める国民大運動岩手県実行委員会(代表 岩手労働議長金野耕治氏)と市内の代表は山本正徳宮古市長に標記の要請を行いました。

今年の「国民大運動自衛隊兵器禁止条約での首長治体キャラバン」は15日行われ、宮古市から佐藤副市長以下、部・課長10名が対応しました。

運動は「憲法を活かした安心・安全な地域づくり」を県内各自自治体に要請するもので、落合久三市議も同席しました。

### 市は非核平和都市宣言

懇談では、「憲法と平和について」をテーマに①憲法改正の是非、②



金野氏から要請分を受け取る佐藤副市長

### 家庭保育世帯に手当

子育て支援策では「今年から生後7か月から12か月の子どもを家庭で育てている世帯へ月1万5千円支給する」と具体的施策をのべました。また

### 問題認識を市と共有

岩手県宮古工場閉鎖にもなう地域経済の影響や77名の解雇された従業員のその後については「ハローワークから情報をとっているが、再就職希望は半分、後は離職手当を受給」と説明しました。

## 宮蘭フェリー就航の成功へ記念シンポジウム開催

23日、市民会館等で「宮蘭フェリー就航30日前記念シンポジウムと交流会」が開かれました。

報告と課題の抽出は復興に関する問題意識を共有できていた。その感想を話していました。

### 訂正

先週の紙面中一面に「広告」とあるのは「公告」に訂正させていただきます。

### 田中市議の研修報告

## 未来都市で地方創生を

SDGs 吉村山形県知事はフル規格新幹線整備の必要性を講演した。同知事は奥羽・羽越新幹線の実現を地方創生の基盤に位置づけていた。知事の講演を受け山形県内から各界の代表で、その実現を期待する討論が行われた。

「スマート社会の創造と地方創生」で清水建設執行役員的那須原和良氏は①インフラ・公共施設の集約戦略②インフラの省力化と長寿命化③公共サービスによる公民連携④SDGs(持続可能な開発目標)⑤ワークライフクオリーの向上という5つの視点からライフサイクルバリエーション(LCV)と称する同社の取り組みを講演した。那須原氏は「公共施設等総合管理計画」実施のための手法として公民連携、PPP・PFI事業の活用を呼びかけ、SDGsでは再生可能エネルギーの利活用など未来社会的な事業と、その可能性を報告した。私はLCV、SDGsとか耳新しい言葉を聞いて不勉強さを感じた。建築環境・省エネルギー機構理事長の村上周三氏はSDGsの基本理念と三つの目標(経済・社会・環境)を紹介し、未来都市の実現が地方創生につながると報告した。(完)



宮蘭フェリーのターミナルビル(藤原)

同シンポジウムは(株)東北地域環境研究室代表の志賀秀一氏が「人が動く、地域が動く」と題して基調講演を行い、その後パネル討論となりました。志賀氏はフェリー開設について、新しい移動手段を地域の「連帯」などに柱に積極的に活用するほか「良き隣人」として

からは青年会議所志賀政信理事長、宮古観光創生研究会代表花坂雄大氏、宮古商工会議所青年部の小山田大助会長がそれぞれ意見をのべました。交流会で寺崎勉商工会議所副会頭が縄文時代からの室蘭市などとの交流を紹介、三鉄の中村一郎社長が締めあさいさつを行い散会しました。

## 漁火

1本約4000円の蒲鉾を川原小田原市は日本の代表的産地で「鈴廣」が有名▼同社は同業者が閉店、生産も減少する中、右肩あがり売り上げを確保。作家の村上龍氏は「刺身以上の酒のつまみになる」と絶賛。その超高級品が「古今」▼古今は古来から伝わる伝統製法で大量生産とは無縁。原料魚はオキギスとグチ。きめ細かさで力強さの味の源。職人は「水産練り製品製造1級技能士」の国家資格を持つ▼職人技を科学的技術で分析、蓄積するのが「魚肉たんぱく研究所」。蒸し時間と温度の調節で食感が違う。消費者は他のものは食べられなくなるかと評価▼成功の秘訣は「危機感」。消費拡大へ、イタリア料理や洋菓子にも活用。「老舗」にあつて老舗にあらず」7代目社長の理念が同社の改革と成長を支える。



---

---

---

---

---